



「子どもが運営する子どもの会社」をコンセプトに昨年、日吉津村に発足した。現在、小学生と園児の15人が参加し、持続可能な開発目標(SDGs)や防災、環境美化などをテーマにさまざまな活動を展開している。

きっかけは、フリースクールのような学校に行きづらい子どもたちの居場所が村内になかったこと。生きる力や自分の意見をしっかりと伝える力を子どもの頃から養ってほしいと、保護者たちが子どもたちに声をかけ、活動がスタートした。

本年度は、県の令和新時代創造県民運動推進補助金を活用して、阪神淡路大震災で女

子ども主体の居場所づくり

■78□

Potato Kids (日吉津村)

の子が亡くなった場所にヒマワリやポケットパークの花壇づくりが咲いたことから復興の象徴として全国に広がっている「はるかかのみまわり」絆プロジェクトにチャレンジ。4月から村内の休耕地を借りて畑づくりするところから始め、種をまき、水やりをし、7月には花を咲かせた。



村内のイベントで縁日屋台を開いた子どもたち。9月24日、日吉津村日吉津

このほか、防災マップづくり
代表の光谷洋紀君(11)は「いろんなことができるのが楽しいし、やりがいもある」と話し、広報担当の滝井奈那さん(12)は「たくさんの人と関われるのも楽しい。中学生になっても続けたい」と目を輝かせる。

保護者代表の光谷純子さん(51)は「子どもたちに自分たちでいろんなことができるという自信が出てきている。いずれは年齢に関係ないみんなの居場所になっていけば」と話している。